

製品名: DOC-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10094**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	20kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK2AP1
別名	CDK2AP1; CDKAP1; DOC1; Cyclin-dependent kinase 2-associated protein 1; CDK2-associated protein 1; Deleted in oral cancer 1; DOC-1; Putative oral cancer suppressor
遺伝子 ID	8099.0
SwissProt ID	O14519
免疫原	抗血清はヒト CDKAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

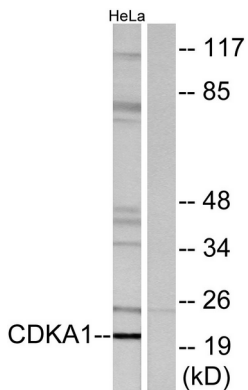
背景

サイクリン依存性キナーゼ 2 関連タンパク質 1 (CDK2AP1) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイクリ

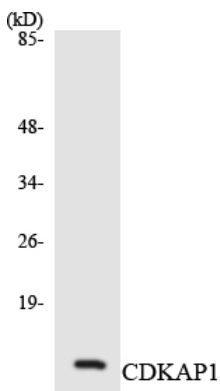
ン依存性キナーゼ 2 (CDK2) 関連タンパク質であり、モノマー性 CDK2 を隔離し、CDK2 をタンパク質分解の標的とすることで、CDK2 の活性を負に制御すると考えられています。このタンパク質は DNA ポリメラーゼ α /プライマーゼと相互作用し、大きな p180 サブユニットのリン酸化を媒介することがわかっており、細胞周期の S 期における DNA 複製の制御的役割を示唆しています。このタンパク質は、胚性幹細胞の分化をエピジェネティックに制御するヌクレオソームリモデリングおよびヒストン脱アセチル化 (NURD) 複合体のコアサブユニットも形成します。したがって、この遺伝子は細胞周期とエピジェネティック制御の両方で役割を果たしています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2012 年 7 月]、類似性:CDK2AP ファミリーに属します。、

研究分野

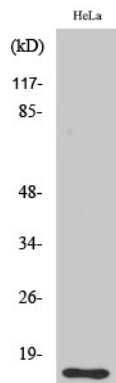
画像データ



CDKPA1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CDKAP1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した DOC-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析